

県立学校改革推進プランに係る評価

(平成27年度再編実施分)

平成30年9月

教育政策課

目次

I	評価の概要	1
1	評価の目的	1
2	評価の進め方	1
3	評価対象	2
4	評価区分とスケジュール	3

II	評価	4
1	普通科及び普通系専門学科・コース	
(1)	グローバルスクールの設置	4
2	職業系専門学科及びコース	
(1)	農業教育拠点校の設置	5
(2)	福祉コースの設置	6
3	社会のニーズに対応した教育	
(1)	地域連携アクティブスクールの設置	7
(2)	環境コースの設置	8
(3)	観光の学びの導入	9
4	適正規模・適正配置	
(1)	統合	10
5	今後の取組の方向性	11
6	外部・関係団体の意見から	12
7	県立学校改革推進プランに係る評価（平成27年度再編実施分） のまとめ	12

III	資料	13
1	生徒及び保護者アンケート調査	13
2	再編実施校聴き取り調査及び中学校アンケート調査	20
3	外部・関係団体の意見	30
4	基礎データ	33

県立学校改革推進プランに係る評価（平成27年度再編実施分）

I 評価の概要

1 評価の目的

県立学校改革推進プラン（以下「プラン」という。）の実施状況及び成果や課題を把握し、より一層魅力ある県立学校づくりを推進するとともに、今後の高校改革に係る計画の策定に資することを目的として評価を実施します。

2 評価の進め方

（1）調査の時期

再編の実施年度から3年が経過し、初めての卒業生が輩出される年に合わせて各種調査を行い、外部からの意見聴取を実施しながら評価を取りまとめます。

（2）アンケート調査、聴き取り調査等の実施

- ア 再編実施校の生徒及び保護者を対象に、アンケート調査を実施します。コース設置の場合にはコース選択者以外にも抽出してアンケート調査を実施します。
- イ 再編実施校を訪問して、聴き取り調査を実施します。
- ウ 再編実施校の近隣中学校にアンケート調査を実施します。
- エ 農業教育拠点校の設置については、農業科設置校（農業に関する系列のある総合学科を含む）にアンケート調査を実施します。

（3）評価の作成

- ア 調査結果は「普通科及び普通系専門学科・コース」「職業系専門学科・コース」「総合学科」「社会のニーズに対応した教育」「県立学校の適正規模・適正配置」の再編種別に大別・整理して、取りまとめを行います。
- イ 取りまとめた調査結果について、教育関係団体、産業関係団体、その他外部・関係団体から意見聴取を実施します。
- ウ 意見聴取等を踏まえ、再編種別ごとに「成果と課題」及び「今後の取組の方向性」について取りまとめます。

（4）評価の公表

評価結果については、教育政策課の実施する政策評価（「教育委員会の点検・評価」）及び、ホームページで取りまとめた内容を公表します。

3 評価対象（平成 27 年度再編実施分）

（1）普通科及び普通系専門学科・コース

ア グローバルスクール（成田国際高校）

（2）職業系専門学科・コース

ア 農業教育拠点校（茂原樟陽高校）

イ 福祉コース（小見川高校）

（3）社会のニーズに対応した教育

ア 地域連携アクティブスクール（船橋古和釜高校・流山北高校）

イ 海洋環境コース（銚子商業高校）

ウ 栽培環境コース（館山総合高校）

エ 観光の学び（館山総合高校）

（4）適正規模・適正配置

ア 統合（大原高校）

4 評価区分とスケジュール

再編年度	評価年度	普通科及び普通系専門学科・コース	職業系専門学科・コース	総合学科	社会のニーズに対応した教育	適正規模・適正配置
H24	H26				泉 ・地域連携アクティブスクール 天羽 ・地域連携アクティブスクール	
H25	H27	柏井 ・国際コミュニケーションコース	松戸向陽 ・福祉教育拠点校 ・福祉コース			
H26	H28	千葉女子 ・教員基礎コース 東葛飾 ・医歯薬コース 佐倉 ・理数科 長狭 ・医療・福祉コース ＜医療コース＞ 安房 ・教員基礎コース	千葉工業 ・工業教育拠点校 ・コンソーシアム 長狭 ・医療・福祉コース ＜福祉コース＞		銚子 ・防災の学び 鶴舞桜が丘 ・緑地管理コース	
H27	H29	成田国際 ・グローバルスクール	茂原樟陽 ・農業教育拠点校 小見川 ・福祉コース		船橋古和釜 ・地域連携アクティブスクール 流山北 ・地域連携アクティブスクール 銚子商業 ・海洋環境コース 館山総合 ・観光の学び ・栽培環境コース	大原 ・統合
H28	H30	松尾 ・グローバル化に関する学び	千葉工業 ・理数工学科	小金 ・総合学科	東葛飾 ・中高一貫教育校 成東 ・単位制	
H29	H31	木更津 ・理数科 匝瑳 ・国際に関するコース	佐倉西 ・福祉コース			
H30	H32	我孫子 ・教員基礎コース 君津 ・教員基礎コース	千葉商業 ・学科再構成 流山 ・学科再構成 成田西陵 ・学科再構成 下総 ・学科再構成 多古 ・学科再構成	旭農業 ・学科再構成 大網 ・学科再構成 茂原樟陽 ・学科再構成 鶴舞桜が丘 ・学科再構成 君津商業 ・学科再構成	安房 ・単位制	
H31	H33	市川南 ・保育基礎コース	我孫子東 ・福祉コース	幕張総合 ・総合学科	市原八幡 ・防災の学び	市原 鶴舞桜が丘 ・統合

II 評価

1 普通科及び普通系専門学科・コース

(1) グローバルスクールの設置

英語科、国際科の具体計画の方向（プランより抜粋）

- 既設の国際科については、これまで進めてきた教育課程や学校行事等の工夫、地域行事への参加、留学生との交流等の成果を踏まえ、教育内容の一層の充実を図り、グローバル社会で活躍・貢献できる真の国際人を育成します。

ア 第2次実施プログラムにおけるグローバルスクールの導入

(ア) 対象校

- ・成田国際高校 普通科・国際科

(イ) 再編の内容

- ・世界を舞台に活躍できるグローバル人材を育成するため、成田国際高校にグローバルスクールを設置します。また、グローバル人材育成のカリキュラムを開発し、その実践を普及します。

イ 実施状況

- ・平成 27 年度から文部科学省のスーパーグローバルハイスクール（以下「SGH」という。）指定校になり、グローバルスタディーズ（以下「GS」という。）課題研究とGSプログラムの二つの研究開発をするとともに、実施しています。
- ・GS課題研究として、1年生は「GS課題研究基礎(必修科目1単位)」、2年生は「GS課題研究発展(必修科目1単位)」、3年生は「GS課題研究活用(選択科目2単位)」を設定し、小グループで課題解決に取り組んでいます。
- ・GSプログラムとして、全教科でのアクティブ・ラーニング、日本文化発信プロジェクト、ボランティア・インターンシップの推進、海外留学の支援、海外の大学への進学支援などを行っています。
- ・地域や専門性を生かした大学・企業人の受け入れにより、研究開発を学校全体で取り組んでおり、生徒に変容を促しています。

ウ まとめ

■成果と課題（○成果・●課題）

- SGH指定校となり、グローバル人材育成のための研究開発をしています。
- グローバルスクールの取組について、生徒、保護者の満足度も高く、ニーズに応えています。
- SGH課題研究などのノウハウをSGHの指定が終わった後、どのように継承していくかが課題です。

■今後の取組の方向性

- 課題研究の手引きなど、SGHで培ったノウハウを継承するための検討をします。

2 職業系専門学科及びコース

(1) 農業教育拠点校の設置

農業科の具体計画の方向(プランより抜粋)

- 進学も視野に入れた教育の展開や、先進農家研修等による将来の農業スペシャリストの育成、新たな農業教育の手法に関する研究・開発等を円滑に推進するため、農業教育の拠点校を設置します。
拠点校と他の農業科設置校とのネットワークを構築し、研究・開発の成果を他校へ還元することにより、県全体の農業教育の底上げを図ります。

ア 第1次実施プログラムにおける農業教育拠点校の設置

(ア) 対象校

- ・茂原樟陽高校

(イ) 再編の内容

- ・農業教育を統括し、農業スペシャリストを育成するなど、本県農業教育の更なる振興を推進するため、茂原樟陽高校を、本県農業高校のセンター的機能を有する農業教育の拠点校とします。
- ・拠点校には、農業教育連携事務局を設置し、連携コーディネーターを配置します。

イ 実施状況

- ・県内農業関係高校、農業大学校等各教育機関、行政機関及び地域の諸団体等を会員とした「農業関係高校人材育成組織(アグリサポーターズちば)」を設置し、拠点校の校長を会長として組織の運営を行っています。
- ・「農業関係高校人材育成組織」では、総会で研修や意見交換会を実施し、農業教育の充実に努めています。

ウ まとめ

■成果と課題(○成果・●課題)

- 農業大学校と県内農業関係高校が連携し、農業生産工程管理(GAP)教育の推進に取り組んでいます。
- 千葉県園芸協会との連携により、農業法人へ就農する生徒が増加しています。
- 拠点校と他の農業科設置校とのネットワークが構築されていますが、先進農家研修等による将来の農業スペシャリストの育成、新たな農業教育の手法に関する研究・開発等については、一部の学校にとどまっています。

■今後の取組の方向性

- 県全体の農業教育の底上げを図るため、拠点校の役割を明確にし、農業関係高校と協力体制のもと、新たな農業教育の手法に関する研究・開発に努めていく必要があります。

(2) 福祉コースの設置

普通科の具体計画の方向（プランより抜粋）

- 医師、教員、介護従事者等不足する人材の育成などを視野に入れ、社会のニーズに対応したコースを設置します。

ア 第1次実施プログラムにおける「福祉コース」の設置

(ア) 対象校

- ・小見川高校 普通科

(イ) 再編の内容

- ・主として、高齢者の介護に必要な専門知識や技術を習得するとともに、介護員としての気遣いや配慮、マナーを学習し、将来福祉分野で活躍できる人材を育成します。
- ・将来的には、授業及び施設実習や介護員養成研修を受講することで、卒業時に福祉に関する資格を取得できるようにします。

イ 実施状況

- ・2学年からコースに分かれ、介護職員初任者研修の修了を目指しています。
- ・平成29年度卒業生のうち19名がコースを選択していました。
- ・コース選択者は2学年で「社会福祉基礎」（2単位）、「介護福祉基礎」（2単位）の科目を履修し、医療従事者や福祉施設職員等による講演や、関係する施設の見学や実習を行っています。
- ・3学年では、「介護総合演習」（4単位）などの科目を履修し、将来の進路を見据えた専門的な介護体験実習を行っています。
- ・コース選択者のうち42.1%（8人）が介護関係の進路に進みました。

ウ まとめ

■成果と課題（○成果・●課題）

- 学習内容に対する生徒の満足度が高く、ニーズに応えています。
- 資格を活用した就職や、より高い資格の取得を目指した進学など、社会の要請に応えた人材を育成し、職業的自立に向けた能力や態度を育んでいます。
- 福祉コース選択に当たり、社会福祉の理念と意義を理解させる必要があります。

■今後の取組の方向性

- 福祉コースの選択に当たって、事前に福祉コースの理念への理解を深められるよう、1学年で福祉について学ぶ機会を設けます。

3 社会のニーズに対応した教育

(1) 地域連携アクティブスクールの設置

地域連携アクティブスクールの具体計画の方向（プランより抜粋）

- 学ぶ意欲に応える学習指導や、充実したキャリア教育など、新たなタイプの学校の理念を具現化する仕組みを整備します。
- 地域との多様な連携を進めながら、規範意識を高め、自立した社会人の育成に向けたきめ細かな指導を実践します。

ア 第2次実施プログラムにおける地域連携アクティブスクールの設置

(ア) 対象校

- ・船橋古和釜高校 普通科
- ・流山北高校 普通科

(イ) 再編の内容

- ・地域との協同により、一人一人の生徒に応じた「学び直し」や「実践的なキャリア教育」を通じて、コミュニケーション能力や倫理観等を身に付け、自立した社会人を育成する地域連携アクティブスクールを船橋古和釜高校と流山北高校に設置します。

イ 実施状況

- ・船橋古和釜高校では、学び直しについて、1学年で学校設定科目「キャリアベーシック1」（3単位）を全員で学び、2学年、3学年では選択科目として「キャリアベーシック2、3、4」（それぞれ2単位）を学んでいます。
- ・船橋古和釜高校では、キャリア教育の一環として、2学年全員が3日間、近隣の約70の事業所で就業体験を実施しています。
- ・流山北高校では、学び直しについて、1学年で「基礎学習I」（1単位）や全学年で毎朝10分の「基礎学習A」（1単位）を実施しています。
- ・流山北高校では、学校設定教科「キャリア学習」（1～3単位）の一環として2学年全員が3日間のインターンシップを実施しています。

ウ まとめ

■成果と課題（○成果・●課題）

- 学び直しの授業に対する生徒の満足度が高く、ニーズに応じています。
- 就業体験・インターンシップなどの体験学習に対する満足度も高く、充実したキャリア教育が実施され、自立した社会人の育成につながっています。
- 「中学校で能力を発揮できなくても、高校では頑張ろうとする意欲を受け止める学校」を理念としていますが、このことを確実に周知する必要があります。

■今後の取組の方向性

- これまで以上に広報に努め、特に中学生やその保護者、中学校に地域連携アクティブスクールの理念や取組の周知を図るようにします。

(2) 環境コースの設置

観光・環境・防災に関する教育の具体計画の方向（プランより抜粋）

〈環境〉

- 環境教育を推進するため、環境についても学べる新たな系列（総合学科）やコース、科目等を設置します。
- 身近な問題をテーマとした学習を通して、環境や環境問題に対する興味・関心を高め、必要な知識・技能・態度を養います。
- 職業系専門学科においては、当該専門教育を活かした体験的な環境学習を行います。

ア 第1次実施プログラムにおける栽培環境コースの設置

(ア) 対象校

- ・銚子商業高校 海洋科
- ・館山総合高校 海洋科

(イ) 再編の内容

- ・海洋環境の学びを更に充実させ、地球環境における海洋の重要性に対する認識を深めるため、館山総合高校・海洋科の栽培コース及び、銚子商業高校・海洋科の海洋科学コースを栽培環境*コースに転換します。
（※銚子商業高校については、設置当初は栽培環境コースの予定でしたが、水産業・漁業・自然環境及び地域性を考慮し、海洋環境コースとしたいという学校からの要望により海洋環境コースにコース名を変更しています。）

イ 実施状況

- ・2年生からコースに分かれています。
- ・銚子商業高校では、「海洋生物」（5単位）、「海洋環境」（6単位）を履修し、利根川の水質調査及び魚種稚魚採取調査実施やカヤックの活用術を習得しています。平成29年度のコース選択者の3年生は17名でした。
- ・館山総合高校では、「資源増殖」（5単位）、「海洋生物」（2単位）、「海洋環境」（5単位）を履修し、小型船舶操縦士の教習やスクーバ潜水実習を行っています。平成29年度のコース選択者の3年生は16名でした。
- ・コース選択者のうち5.9%（1人）が環境に関する大学へ進学しています。

ウ まとめ

■成果と課題（○成果・●課題）

- コースの学びを通して、県内の企業を就職先として考える生徒が増えていきます。
- 充実した学習を通して、生徒はコースの学習内容に興味をもち、積極的に取り組むようになりました。
- 広報が学科の説明までで、コースの内容までの周知が不足しています。

■今後の取組の方向性

- 中学校や学校説明会で周知をする際に、コースの学びについても触れるとともに様々な進路に対応できることを広報します。

(3) 観光の学びの導入

観光・環境・防災に関する教育の具体計画の方向(プランより抜粋)

《観光》

- 千葉県のおもたれた観光資源(豊かな自然、歴史的遺産、国際空港、ゴルフ場、マリンスポーツ等)を有効活用し、観光についても学べる新たな系列(総合学科)やコース、科目等を設置します。
- 各専門教育との関連の中で、地域や産業の理解、地域振興の在り方などの観光教育を通して、地域への愛着や理解、人との接し方、観光客のもてなしの気持ちなどの知識・技能・態度を養います。

ア 第1次実施プログラムにおける「観光の学び」の導入

(ア) 対象校

- ・ 館山総合高校 工業科・商業科・海洋科・家政科

(イ) 再編の内容

- ・ 地域の自然や産業、文化を観光資源として総合的に学習し、国内外の観光産業の意義や役割を理解させるとともに、郷土に愛着と誇りの持てる人材を育成するため、館山総合高校に観光の学びを導入します。

イ 実施状況

- ・ 1学年では全員が、道の駅の元駅長による講話、NPO法人安房文化遺産フォーラム等と連携した地域の観光資源のガイダンス、城西国際大学と連携した講演を聴講しています。
- ・ 2学年、3学年では各学科の「課題研究」を中心に学びを実施しています。

ウ まとめ

■成果と課題(○成果・●課題)

- 生徒は、地域の方々とのつながりや安房地域の観光資源の豊富さを意識するようになりました。
- 観光業界に興味をもつ生徒が増えました。
- 生徒、保護者共に、入学前の学びへの認知度が低い状況があります。
- 学科によって、学びに取り組みやすい学科とそうではない学科があり、中には学びが定着していない生徒がいます。

■今後の取組の方向性

- 中学校訪問や学校説明会において、観光の学びを導入したことによる成果等を具体例を示しながら説明します。
- 2・3年生の各学科の学びに加え、海外の学生との交流会などを観光の学びに結び付けることも含めて検討し、学びを充実させる方向で取り組んでいきます。

4 適正規模・適正配置

(1) 統合

全日制高校の配置の具体計画の方向（プランより抜粋）

- 多くの友人・教師との触れ合いやお互いの切磋琢磨の機会を確保し、教育課程の柔軟な編成や活力ある教育活動が展開できるよう、学校の規模・配置の適正化を進めます。
- 多様な学校の中から、生徒が興味・関心、適性等に応じて学校が選べるように、各校の特色を更に深化させます。

ア 第1次実施プログラムにおける統合及び総合学科の設置

(ア) 対象校

- ・大原高校、岬高校、勝浦若潮高校

(イ) 再編の内容

- ・使用校舎は大原高校とし、設置学科は多様な学びを可能とする総合学科とします。
- ・大原高校の健康スポーツ科は、平成25年度入試から募集を停止します。
- ・統合校に設置する総合学科では、3校の学びを継承し、次のような系列を設けます。
「普通系列」・「園芸系列」・「海洋科学系列」・「生活福祉系列」
- ・岬高校の農場及び勝浦若潮高校の実習場は、園芸や水産に関する実習等で使用します。

イ 実施状況

- ・個に応じたきめ細かな指導により、基礎・基本の指導を徹底し、「確かな学力」の定着を図っています。
- ・2年次からは普通、園芸、海洋科学、生活福祉の4つの系列に分かれ、生徒の興味・関心に応じた選択科目を設定し、一人一人の進路実現に応えるようにしています。

ウ まとめ

■成果と課題（○成果・●課題）

- 総合学科における幅広い科目設定により、学習指導、生徒指導、進路指導等において、生徒個々のニーズに応じた対応が実践できています。
- 統合により、部活動数や部員が増加し活発な活動が行われるようになりました。
- 周知・広報活動を行う際、現在の教育活動における総合学科の特徴を整理し、わかりやすい言葉で説明する工夫が必要です。大学進学から就職まで生徒の多様なニーズに応じた学校であることを中学生や保護者に理解してもらうことが重要です。

■今後の取組の方向性

- 総合学科の特徴を中学生や保護者、学校関係者に理解してもらえらるわかりやすい資料を作成し、中学校訪問や学校説明会を積極的に利用し丁寧な説明に努めます。

5 今後の取組の方向性

○新しい学びの内容の一層の工夫

生徒や保護者を対象とした再編に対するアンケート結果を見ると、「将来役立つ資格が取れた」、「将来に向けての体験ができた」等の意見が多く、学びやコース・学校選択に対する肯定的な回答が8割を超えるなど、全体的に生徒や保護者の満足度が高く、ニーズに応えていることが伺えます。

一方で中には、授業内容や学びに対する満足度が低いものもありました。4つの学科を設置している高校に導入した、「観光の学び」は資格取得等に結びつけにくく、当初は試行錯誤が続いていました。

現在では、それぞれの学科が特色を生かしながら、「観光の学び」と関連づけた実践が進んでいます。特に昨年度は家政科の生徒が課題研究の授業テーマとして「郷土料理（なめろう）を使ったオリジナルのレシピ作り」に取組み、開発した作品が「ご当地！絶品うまいもん甲子園」で準優勝し、コンビニエンスストアでの商品化につながりました。他にも商業科ではマーケティングの授業において、房総の観光資源についてプレゼンテーションソフトを使って、発表するなど学びの新たな取組が見えてきています。

今後は、台湾の学生との交流会などを「観光の学び」に関連づけて学年共通のプログラムとすることを検討しています。

○学びの魅力の広報・周知

再編対象校からの聴き取り等では、中学生やコース選択者に対して、取組や理念を伝えるための広報が必要、との回答が多数ありました。各校は、学びの魅力や進路へのつながりを周知する場や機会を設け、実践対応を始めています。

また、県教育委員会としても再編校の取組等を周知するためホームページを活用して積極的な広報に努めます。

6 外部・関係団体の意見から

平成 27 年度実施分の再編について、外部・関係団体からは、「中学校卒業生数の急激な減少や地域の特性の違い等、様々な課題に対し、丁寧な実践が行われていることがわかった」、「統合についてはやむを得ないと感じる」など、全般的には、概ね評価できる旨の意見をいただきました。加えて、「各学校がこの学校ならではの特色をもつことが必要である」との意見もいただきました。

一方、再編ごとの個別の回答では、農業教育拠点校の設置については、「情報共有が必要であり、今後、行政機関とのネットワークを活用することが求められる」、また環境コースの設置や観光の学びの導入に関しては、「資格等の取得に向けた取組が必要であるだろう」との指摘がありました。

併せて、「中学生・保護者にとどまらず県民に対し、高校改革を推進する目的及び取組の現状と成果について、広報活動の強化が必要」との指摘がありました。

全体として、県教育委員会が分析した成果と課題について、適切にまとめられているとの評価をしていただきました。

7 県立学校改革推進プランに係る評価（平成 27 年度再編実施分）のまとめ

平成 27 年度に実施した再編については、本冊子 4 ページから 10 ページに取りまとめたように、概ね評価できるものとなっています。

また、再編実施校の聴き取り調査では、「自分の考えを発信する力を付けた」、「福祉マインドを育てることができた」、「地域の方々とのつながりや地域の観光資源の豊かさを意識するようになった」など、具体的な成果の実例があげられており、プランの重点事項と位置づけているキャリア教育の充実に、再編が寄与していることが伺えます。

一方で、これまでも高校では、中学校訪問や学校説明会を通して、再編内容や学校の取組について周知しているものの、コースや学びの内容を十分理解せずに入学してきている生徒も一部に見られます。目的意識を持ち、自分を生かせる学校選択につながるよう、地域及び中学校の意見やアイデアも踏まえ、効果的な情報発信について、引き続き検討していく必要があります。

アンケート調査や聴き取り調査及び外部・関係団体からいただいた御意見や提案を参考にしながら、今後も魅力ある県立学校づくりを推進してまいります。

Ⅲ 資料

1 生徒及び保護者アンケート調査

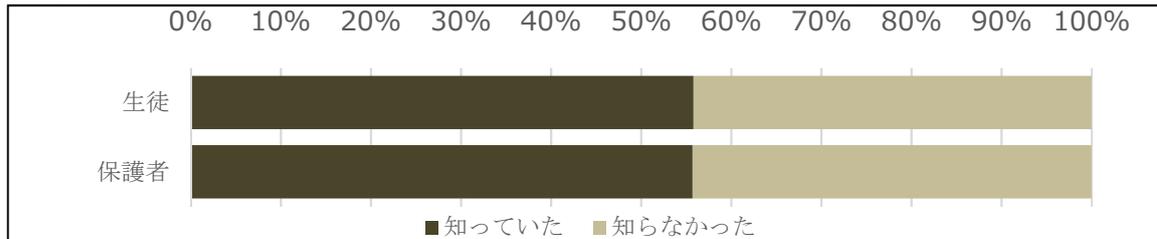
(1) グローバルスクール（成田国際高校）

ア アンケートの実施

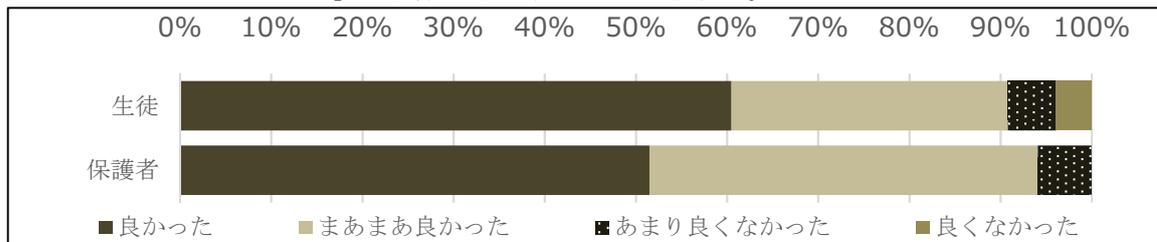
(ア) 実施時期 平成 29 年 12 月

(イ) 回答数 生徒 77、保護者 70

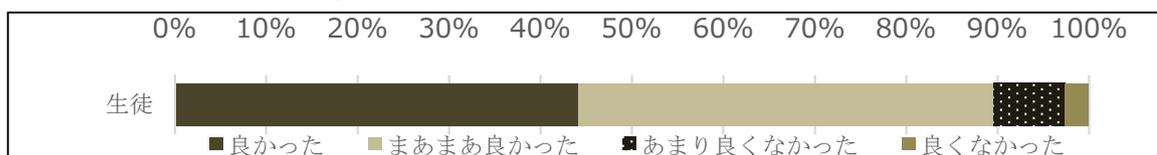
イ 受検前に「グローバルスクール」があることを知っていましたか。



ウ 「グローバルスクール」の授業内容に満足していますか。



エ 「グローバルスクール」で学んで良かったですか。



- ・ 課題研究では、自分達で世界に視野を向けて問題を探すというのは、貴重な機会だった。
- ・ 海外に関わる機会が多く、課題、問題を多角的に学ぶことができ、将来に役立つ。
- ・ プレゼン能力の向上、見方の多様性、親交が深まった。
- ・ 海外フィールドワークが良い経験になった。
- ・ 別に課題研究はなくても良かったと思う。(やるならもっと時間が欲しかった。)

オ 「グローバルスクール」の進路希望状況



- ・ 大学進学：国際関係、経済関係、法学関係、文学関係、看護関係など
- ・ 専門学校：外国語関係、航空関係など
- ・ 就 職：公務員など
- ・ そ の 他：未定

(2) 農業教育拠点校（茂原樟陽高校）

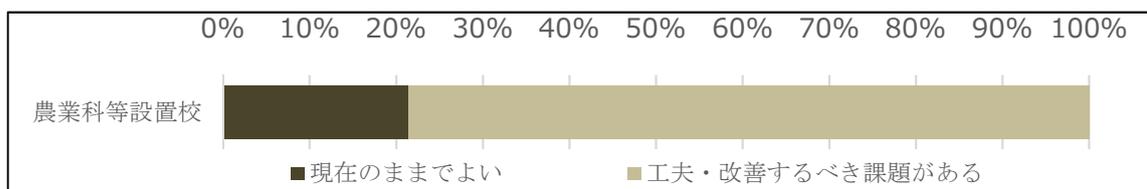
ア アンケートの実施

(ア) 実施時期 平成 30 年 3 月

(イ) 回答数 農業教育拠点校と連携している 14 校

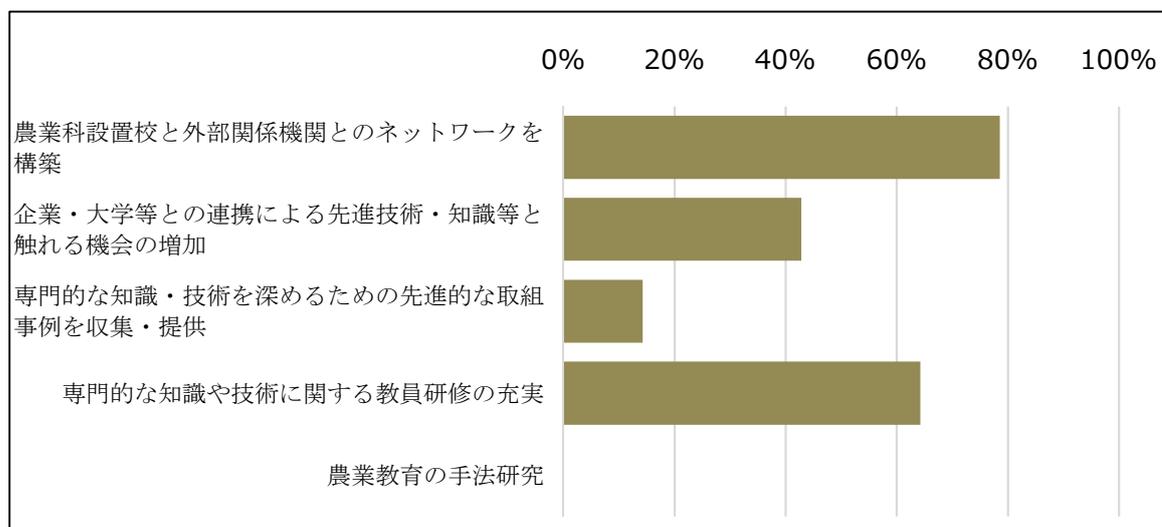
(農業科及び農業に関する系列のある総合学科設置校)

イ 農業拠点校について、どのようにお考えですか。



- ・農業大学校との連携は強くなっている。その他の連携で生徒に還元できるものがほしい。
- ・事務局（校長、教頭、担当等）の負担を考えると人的に加配するなどの配慮を頂き、拠点校としての機能を強化したい。
- ・農業部会などと綿密な打合わせを行い、生徒募集につなげられるような対策が必要である。
- ・園芸協会や J A などの外郭団体との連携を深める必要性を感じている。
- ・拠点校の役割が、中学校へも正確に伝わるように、ポスター、パンフレット等の記載・表現を適切に行う。

ウ アグリサポーターズちばの取組として、期待したいものは何ですか。（2つまで）



エ 拠点校に期待することや、農業教育の推進・充実に向けて必要と思われることを自由にお書きください。

- ・千葉県農業の現況を踏まえて、農業高校に求められている役割は何か、どんな人材を育成すべきかについてアグリサポーターズちばの中で再度議論する。
- ・県教委と拠点校、農業部会等が密接な連携を取り、具体的な実践的な計画を作成することが、推進の第一歩になると思われる。
- ・同じ職場内での技術の伝承が難しい状況にあると考えます。他校の同じ部門との技術交流も研修にしたいと思います。
- ・拠点校を中心に農業教育の推進・充実に向けて、やはり拠点校、中心校だけが充実していても難しいと考える。

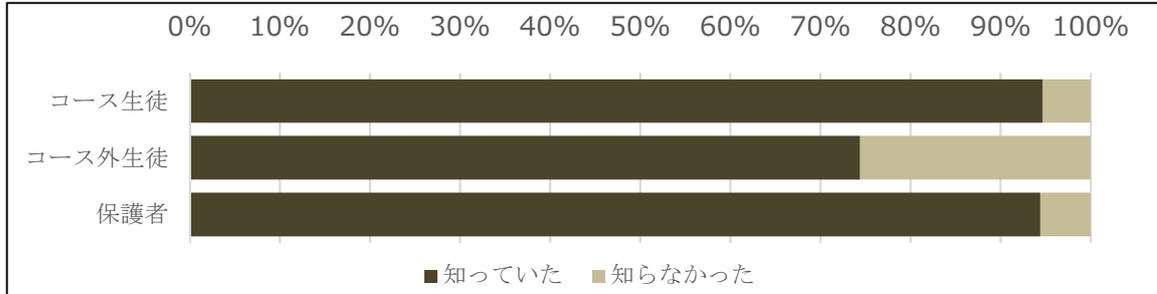
(3) 福祉コース（小見川高校）

ア アンケートの実施

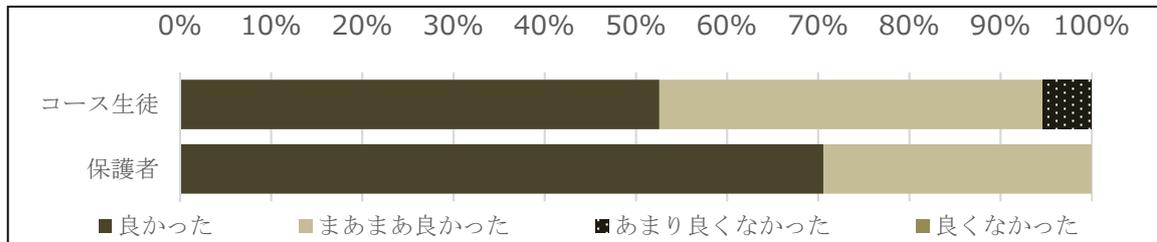
(ア) 実施時期 平成 29 年 12 月

(イ) 回答数 コース生徒 19、コース外生徒 41、コース選択者の保護者 18

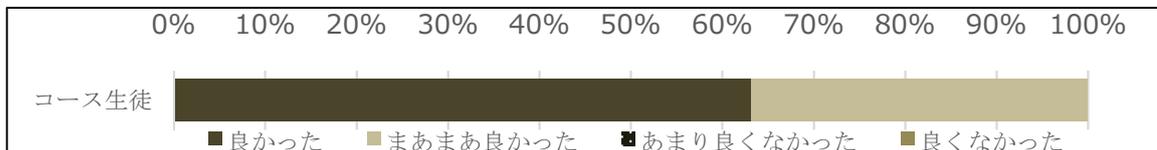
イ 受検前に「福祉コース」があることを知っていましたか。



ウ 「福祉コース」の授業内容に満足していますか。

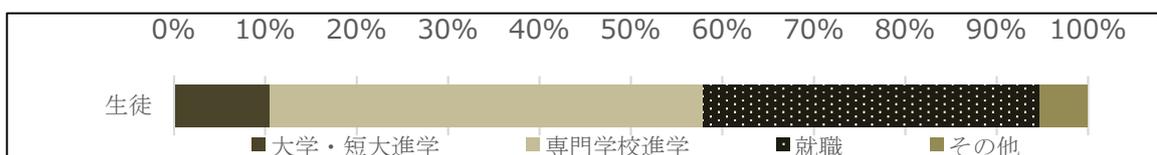


エ 「福祉コース」を選択して良かったですか。



- ・ 将来、役に立つ資格が取れた。
- ・ 自分の進路（福祉）に役に立った。
- ・ 福祉について、知識、技術、制度を学べて良かった。

オ 「福祉コース」の進路希望状況



- ・ 大学進学：福祉関係
- ・ 専門学校：福祉関係、看護関係、理学療法士関係など
- ・ 就 職：介護職など
- ・ そ の 他：未定

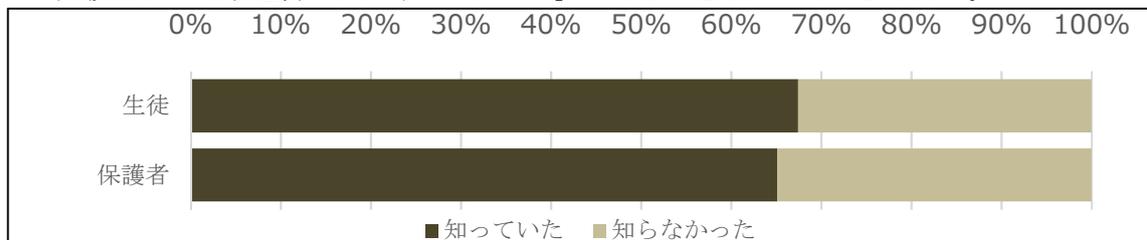
(4) 地域連携アクティブスクール（船橋古和釜高校・流山北高校）

ア アンケートの実施

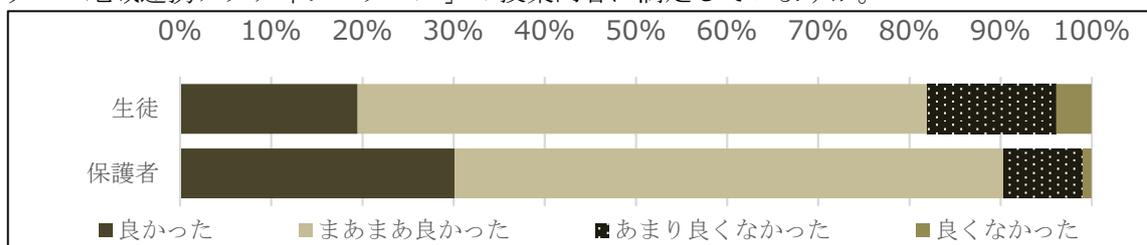
(ア) 実施時期 平成 29 年 12 月

(イ) 回答数 生徒 130、保護者 110

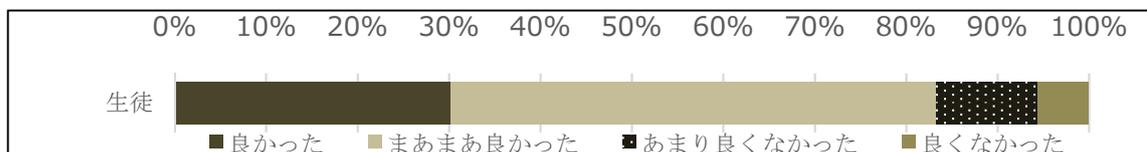
イ 受検前に「地域連携アクティブスクール」があることを知っていましたか。



ウ 「地域連携アクティブスクール」の授業内容に満足していますか。

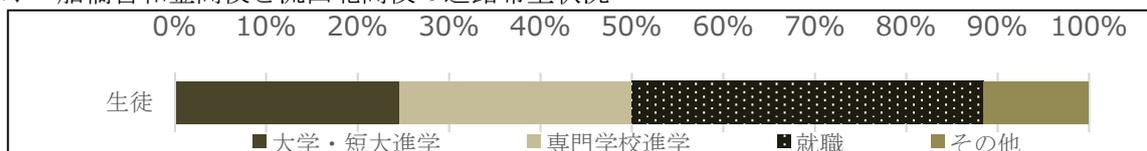


エ 「地域連携アクティブスクール」で学んで良かったですか。



- ・学び直しができた。
- ・わからなかった所が理解できるようになった。
- ・就職がすごく充実した。インターンシップが良かった。
- ・社会で必要なことを学んだ。
- ・進学のためにもっと難しい内容を教えてほしい。

オ 船橋古和釜高校と流山北高校の進路希望状況



- ・大学進学：情報関係、工業関係、医療関係、教員養成関係、商業関係など
- ・専門学校：看護関係、IT関係、美容関係、保育関係、調理関係など
- ・就 職：製造関係、事務職、介護職、美容関係、自動車整備関係、公務員など
- ・そ の 他：未定、未記入

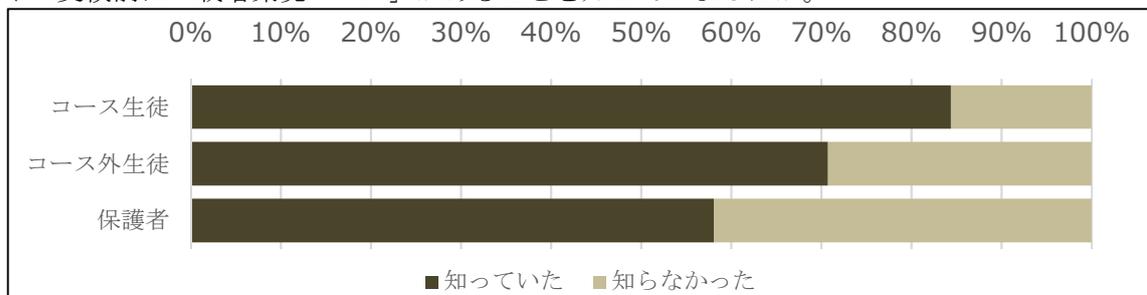
(5) 栽培環境コース（銚子商業高校・館山総合高校）※銚子商業高校は海洋環境コースに名称を変更

ア アンケートの実施

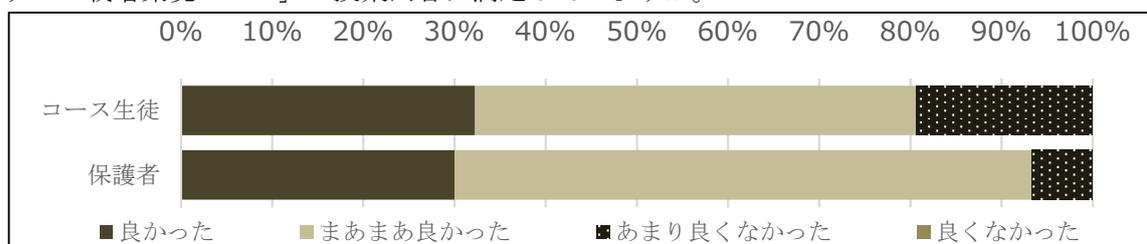
(ア) 実施時期 平成 29 年 12 月

(イ) 回答数 コース生徒 33、コース外生徒 43、コース選択者の保護者 31

イ 受検前に「栽培環境コース」があることを知っていましたか。



ウ 「栽培環境コース」の授業内容に満足していますか。

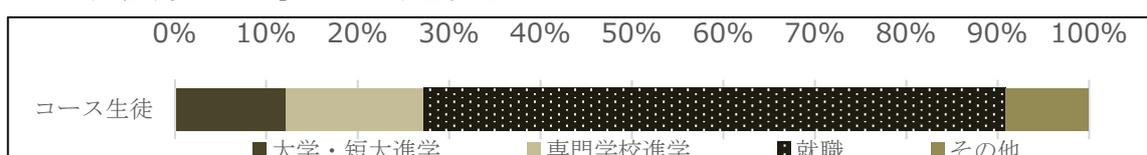


エ 「栽培環境コース」を選択して良かったですか。



- ・先生達のおかげで自分の知りたいことや疑問点が解決できた。
- ・いろいろな資格が取れた。
- ・実習が楽しかった。
- ・自分の知らなかったことをたくさん知ることができた。
- ・本校舎と海洋校舎の行き来がよかった。

オ 「栽培環境コース」の進路希望状況



- ・大学進学：環境関係
- ・専門学校：海洋関係
- ・就 職：製造関係、建築関係、接客関係、公務員など
- ・そ の 他：未定

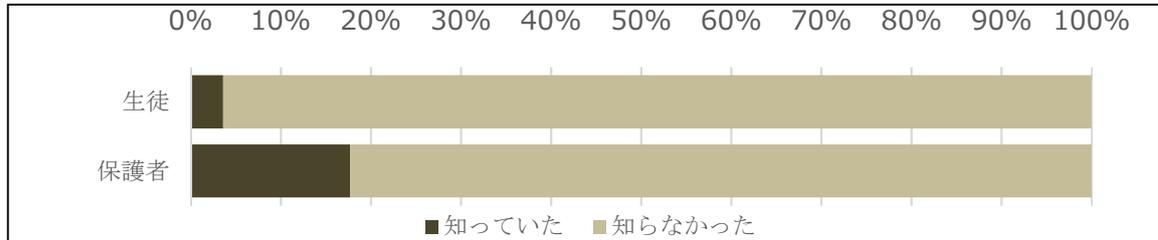
(6) 観光の学び (館山総合高校)

ア アンケートの実施

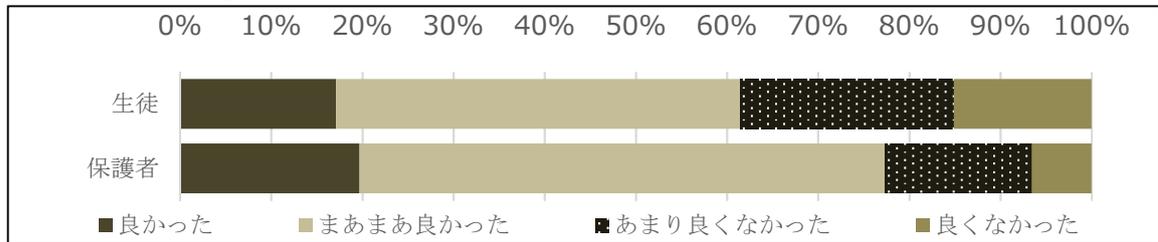
(ア) 実施時期 平成 29 年 12 月

(イ) 回答数 生徒 137、保護者 127

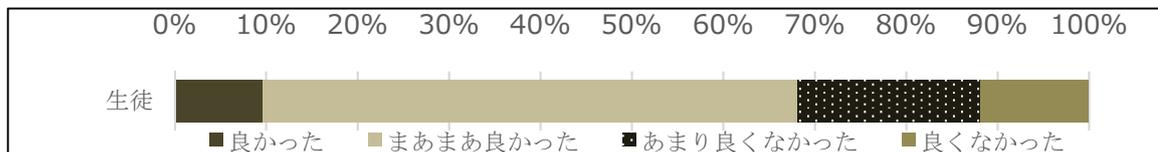
イ 受検前に「観光の学び」があることを知っていましたか。



ウ 「観光の学び」の授業内容に満足していますか。

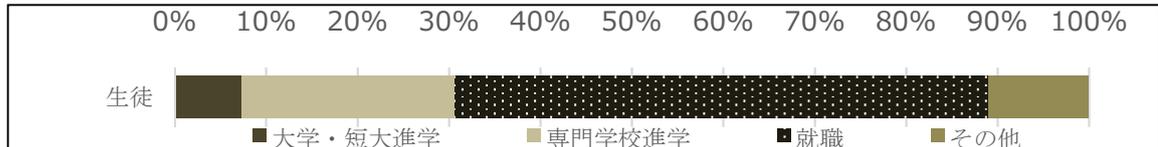


エ 「観光の学び」で学んで良かったですか。



- ・ 地元の誇れるものを改めて深く知れた。
- ・ 自分の住んでいる地域の良さを知る機会が増えたので良かった。
- ・ 大学の教授の話の聞けたり、実際に地元の観光スポットを巡れたから。
- ・ 観光を学ぶ意味がわからない。
- ・ 館山に愛着がない。

オ 館山総合高校の進路希望状況



- ・ 大学進学：福祉関係、保育関係、商業関係など
- ・ 専門学校：海洋関係、理学療法士関係、情報関係、医療関係、美容関係、保育関係など
- ・ 就 職：医療関係、美容関係、食品関係、製造関係関係、IT関係、ホテル関係、公務員、船舶関係など
- ・ そ の 他：未定、未記入

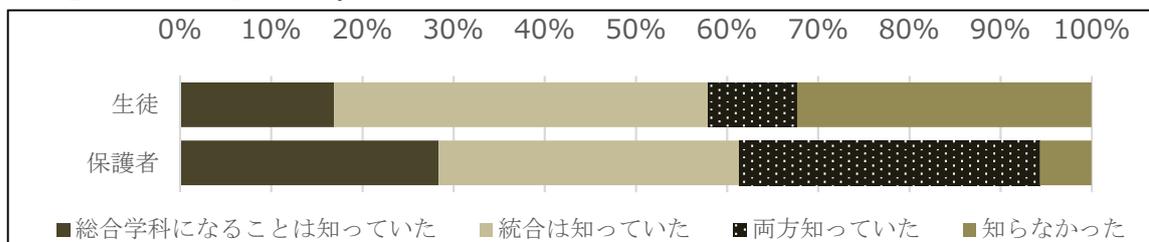
(7) 統合・総合学科（大原高校）

ア アンケートの実施

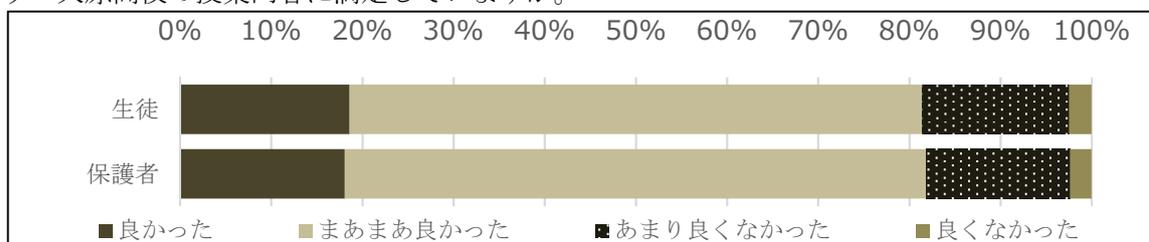
(ア) 実施時期 平成 29 年 12 月

(イ) 回答数 生徒 125、保護者 94

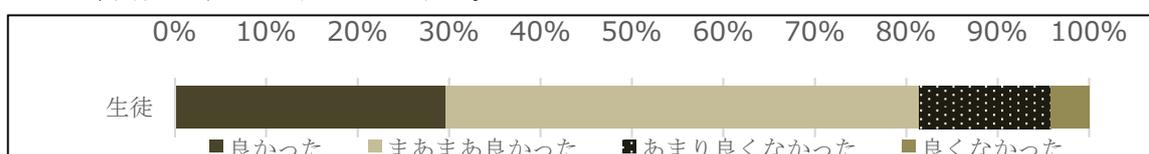
イ 受検前に大原高校が旧大原高校・岬高校・勝浦若潮高校の 3 校に統合し、総合学科になることは知っていましたか。



ウ 大原高校の授業内容に満足していますか。

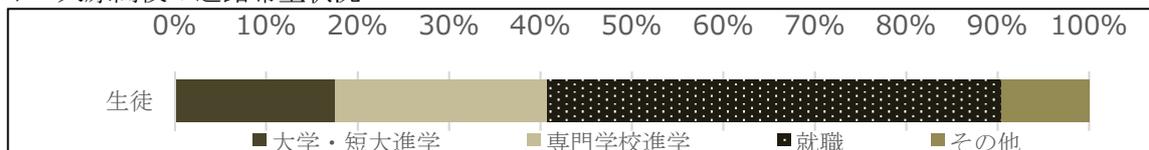


エ 大原高校で学んで良かったですか。



- ・学べることがたくさんあり良かった。また学力を伸ばすことができた。
- ・熱心に指導をしてくれた先生のおかげで、部活動に打ち込むことができた。
- ・授業を基礎から学ぶことができた。
- ・園芸系列や海洋科学系列の実習が楽しかった。
- ・介護の資格を取ることができた。
- ・授業に真面目に取り組まない人がいる。

オ 大原高校の進路希望状況



- ・大学進学：海洋関係、福祉関係、スポーツ関係、音楽関係、農業関係、保育関係など
- ・専門学校：看護関係、美容関係、栄養関係、IT関係、自動車整備関係、農業関係など
- ・就 職：製造関係、食品関係、介護職、公務員、美容関係、農業関係など
- ・そ の 他：未定、未記入

2 再編実施校聴き取り調査及び中学校アンケート調査

(1) グローバルスクール

ア 成田国際高校への聴き取り(抜粋)

(ア) 「グローバルスクール」の目標や特色

- ・成田からアジア諸国・地域に対し、「持続的発展」に向けた提案を発信できるグローバルリーダーの育成を目指す。
- ・GS課題研究とGSプログラム二つの研究開発を行う。

(イ) 学習への取組

- ・積極性が見られるようになった。
- ・自分で調べてみようとする力が付いた。

(ウ) 「グローバルスクール」設置の成果

- ・生徒が自分の考えを発信する力を付けた。
- ・組織としてグローバル関係の行事を行うことができた。

(エ) 現在の課題

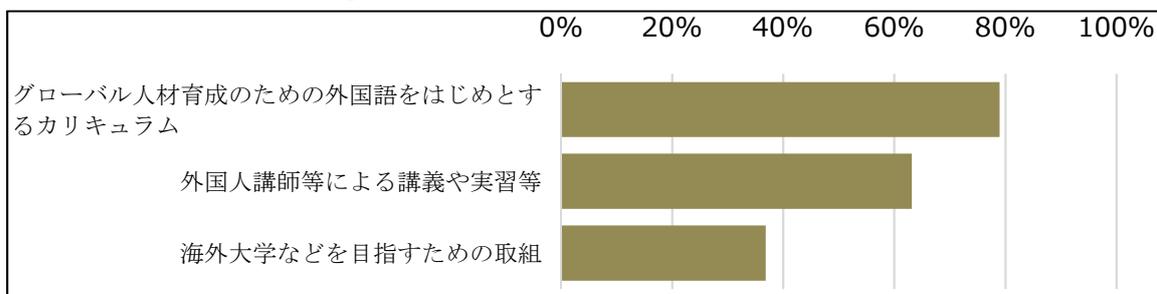
- ・SGHの行事により、学校全体が多忙感をもつようになっている。

(オ) 近隣中学校の状況

- ・グローバルスクールに対し理解していると考えている。
- ・成田国際高校に対して、地元以外の中学生の関心が高まったことで、地元出身の生徒の割合が減少傾向にある。

イ 近隣中学校(19校)へのアンケート

(ア) 「グローバルスクール」の取組として良いもの(各中学校2つまで)



(イ) 中学校からの意見(抜粋)

- ・GSプログラムの育成の観点で、学習効果や生徒の将来の生き方(進路)に触れられるような中学校との交流を推進してほしい。
- ・県内各地にバランスよく配置してほしい。
- ・成田という国際都市だから意義がある。
- ・高校に魅力を感じ、志望する生徒が多くいるため、入学できない生徒もいる。そのため、グローバルスクールをぜひ、増やしてほしい。

(2) 農業教育拠点校

ア 茂原樟陽高校への聴き取り(抜粋)

(ア) 拠点校に向けての準備

- ・千葉県高等学校教育研究会農業部会を中心に活動する。

(イ) 拠点校としての取組

- ・県内農業関係高校、農業大学校等各教育機関、行政機関及び地域の諸団体等を会員とした「農業関係高校人材育成組織」を設置し、拠点校の校長を会長として組織の運営を行っている。
- ・「農業関係高校人材育成組織」では、総会で研修や意見交換会を実施し、農業教育の充実に努めている。

(ウ) 現在の課題

- ・職員の栽培技術等の向上
- ・農業法人からの要望に応える人材育成へ向けた取組の検討

イ 部会加盟校の(14校)へのアンケート

(ア) 加盟校からの意見

- ・農業大学校との連携は強くなっている。その他の連携で生徒に還元できるものがあるとうれしい。
- ・県内農業高校の規模は年々小さくなっており、クラス数、職員数も減少してきているが、拠点校一校にお願いするのは大きな負担ではないか、拠点校・中心校の活用をした方が良いのではないか。
- ・事務局(校長、教頭、担当等)の負担を考えると人的に加配するなどの配慮を頂き、拠点校としての機能を強化したい。また、連携コーディネーターについては予算と役割を明確にし、県民全体に周知してほしい。
- ・拠点校への人員配置と予算措置が必要ではないか。
- ・拠点校の役割があいまいである。再度設置に至った経緯から役割を明確にする必要がある。
- ・単年度の重点目標を掲げる。
- ・拠点校の教頭、農場長が中心となり、事務連絡等を行っているが、従来の業務も多忙であり、拠点校関係業務に十分に時間を取れず、改善する余裕がない。拠点校の内容を熟知した人的補充が必要である。
- ・拠点校、中心校の仕組みはできているものの、活動の方向性や具体性が見えていないように思う。今一度、設置目的や期待する効果などを確認し、学校、生徒、教職員、地域にどのような活動を行わせるか検討が必要だと思う。
- ・農業教育拠点校としての、農業大学校・農業事務所・農業関係団体との連携を密にすることにより新規就農・農業後継者の育成のために、「アグリサポーターズちば」を実施している。

(3) 福祉コース

ア 小見川高校への聴き取り(抜粋)

(ア)「福祉コース」の目標や特色

- ・地域福祉を担う福祉人材の育成、地域施設・学校との連携

(イ)学習への取組

- ・他教科に比べ進度が速く、課題の量も多いが、「資格取得のため」という気持ちが強く、挫折した生徒はいない。

(ウ)「福祉コース」設置の成果

- ・2年～3年の2年間で十分に生徒の中に福祉マインドを育てる（「思いやり」「幸せ」「感謝」の想いをカタチにする力を育む）ことができた。

(エ)現在の課題

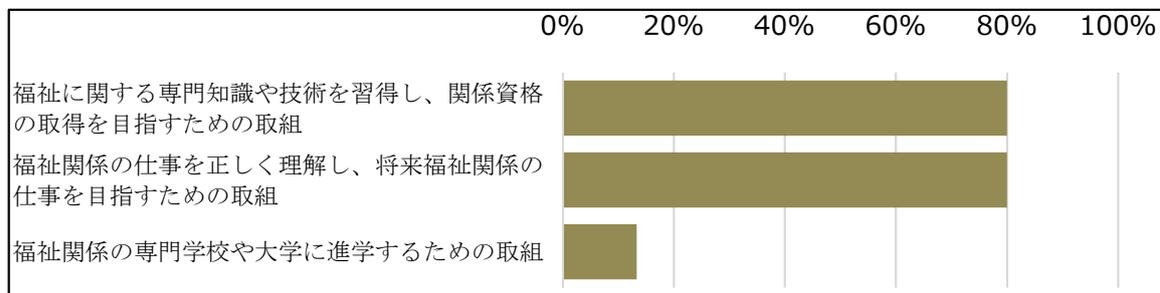
- ・福祉コースを選択する生徒が、各学年の定員である20名まで集まらない。
- ・福祉コースの理念が校内全ての職員と生徒に十分に浸透していない。

(オ)近隣中学校の状況

- ・本校に卒業生が在学している県内中学校には理解を得ている。
- ・隣接県協定で入学できる茨城県側の中学校の中には、福祉コースがあることを知らない中学校があった。

イ 近隣中学校（15校）へのアンケート

(ア)「福祉コース」の取組として良いもの（各中学校2つまで）



(イ)中学校からの意見(抜粋)

- ・福祉のイメージ向上が図れるような取組を行ってほしい。
- ・将来福祉関係の仕事に就きたいと考える生徒の育成、また、生徒の将来の職の選択肢が増えることを期待している。
- ・福祉に関する専門的な知識や心構えなどを学ぶとともに、より実践力を身に付けるため現場で使用されている用具等を使っての実習ができている点で、魅力ある存在である。
- ・福祉コースがあることは知っていても、具体的な活動を中学生が知らないなので、授業の様子や実習、研修などを広く情報発信してほしい。

(4) 地域連携アクティブスクール

ア 船橋古和釜高校・流山北高校への聴き取り(抜粋)

(ア)「地域連携アクティブスクール」の目標や特色

- ・地域の力を借りながら、学び直しや就業体験等を通して自立した社会人を育てる。
- ・地域と共に生きる社会人の育成(学ぶ意欲に応える学習指導・実践的なキャリア教育・地域との連携・独自の入学者選抜)

(イ)学習への取組

- ・学校を欠席する生徒が少なくなり、授業は落ち着いて真剣に取り組んでいる。
- ・「基礎学習A・I」(学び直し)や習熟度別授業等により生徒の意欲が概ね向上している。

(ウ)「地域連携アクティブスクール」設置の成果

- ・わかる授業の推進、自己肯定感や学校への帰属意識を感じさせることにより、転退学者が減少し、不登校防止につながっている。
- ・本校の特色を明確に中学校に示すことができたことが、受検者数の増加に結びついた。
- ・キャリア教育の確立や、地域の人材活用による学習ボランティアの充実、就職実績の安定化につながった。

(エ)現在の課題

- ・学習サポートボランティアの有効活用など、授業等における一層の外部人材との連携が必要である。また、進学希望者への支援も必要になっている。
- ・特別な支援を要する生徒の増加に伴う、これらの生徒への組織的対応が必要となっている。

(オ)近隣中学校の状況

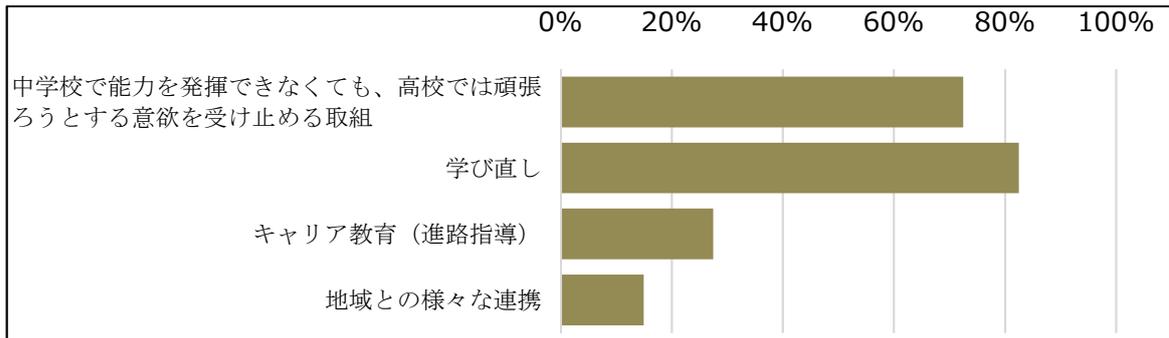
- ・生徒指導上問題を抱える生徒より、たとえ長欠であっても真面目に高校生活を送ろうと考えている生徒のための学校であるという評価が浸透してきた。
- ・学び直しやキャリア教育に対して高評価である。

(カ)地域等との連携

- ・大学生等による学習サポートボランティアを導入したきめ細やかな学習指導の実践。
- ・2年生全員が3日間、近隣の多くの事業所でインターンシップ・就業体験を実施。
- ・地域ボランティア活動等への積極的な参加。

イ 近隣中学校（40校）へのアンケート

(ア) 「地域連携アクティブスクール」の取組として良いもの（各中学校2つまで）



(イ) 中学校からの意見（抜粋）

- ・ 学び直しやキャリア教育に力を入れていただいて、中学校では活躍できなかった生徒も意欲をもって進学することができるのでありがたいです。
- ・ 様々な形で連携を深め、多くの生徒を受け入れていただきありがたいです。多くの地区に設置されることを望みます。
- ・ 中高の交流はどうか。また、地域のゲストティチャーを活用するなどさらに発展することができるのではないかと。
- ・ 実際にどのような取組を行っているのか。またそのことによる変容が中学校にもっと伝わると良い。

(5) 栽培環境コース ※銚子商業高校は海洋環境コースに名称を変更

ア 銚子商業高校・館山総合高校への聴き取り(抜粋)

(ア)「栽培環境コース」の目標や特色

- ・海洋について知識を学び、環境保全や生物環境の学習をするとともに未来の海を守るための知識・技能を習得することを目標としている。
- ・自国の海で水産物を生産するための知識・技術、それを支える海の環境を知り、守ることと合わせ、様々な実習を通して学習する。

(イ)学習への取組

- ・銚子商業高校では、私語は少なく、積極的に授業に参加し質問しており、資格取得に熱心な生徒が多い。
- ・館山総合高校では、自らコースを選択したこともあって、専門学科については興味・関心をもって取り組んでいる。

(ウ)「栽培環境コース」設置の成果

- ・コースの学びを通して、県内の企業を就職先として考える生徒が増えている。
- ・生徒はコースの学習内容に興味をもち、積極的に取り組むようになった。

(エ)現在の課題

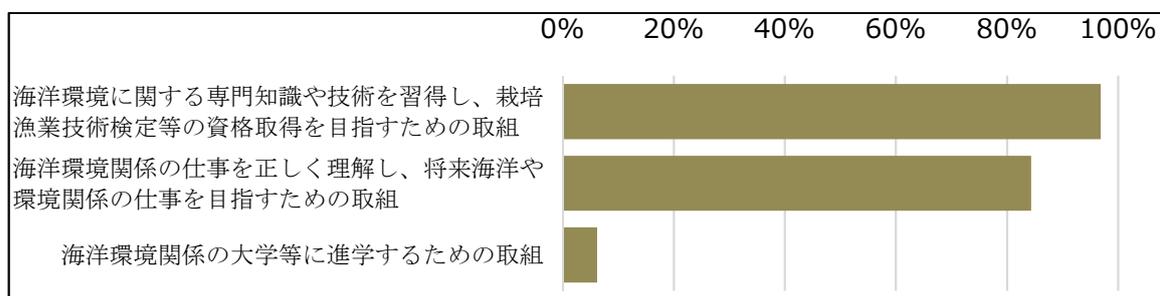
- ・広報が学科による区分に基づくものが中心で、コースの内容まで周知できていないこと。
- ・コースが大学進学も視野に入れたものであるが、コース選択者にその認識が無く、大学進学者がほとんど出ていないこと。

(オ)近隣中学校の状況

- ・銚子商業高校では、海洋科全体として、体験入学等に参加する生徒が多くいる。また、水族館などでの飼育に興味をもち海洋環境コースを希望して入学する生徒もいる。
- ・館山総合高校では、コースの学習内容に専門的な内容が多く、中学校には理解しにくい。今年度は海洋科のポスターと学科コース紹介を県下の中学校に配付した。

イ 近隣中学校(32校)へのアンケート

(ア)「栽培環境コース」の取組として良いもの(各中学校2つまで)



(イ)中学校からの意見(抜粋)

- ・将来的に重要な問題であるため、コース等の設置は必要だが、まだ認識不足なので、当面は既存のコースの充実から始めるべき。
- ・コース内容が変わったことで、進学、就職のビジョンがどのようになっていくのか、中学校へ積極的に発信してほしい。
- ・海洋関係の大学への進学、就職などの実績を確実に積み上げてほしい。

(6) 観光の学び

ア 館山総合高校への聴き取り(抜粋)

(ア)「観光の学び」の目標や特色

- ・学びを通して、生徒に地元を誇りをもってもらい、地元で定着し、地域の発展に貢献してもらうことを目標としている。
- ・学びについて、地元の理解が得られており、多くの団体が連携に前向きである。

(イ)学習への取組

- ・生徒からは学びを通して、地元への愛着が広がったとの意見が出ている。

(ウ)「観光の学び」導入の成果

- ・地域の方々とのつながりや安房地域の観光資源の豊かさを意識するようになった。
- ・地域の素材を用いた製品等を考案し、外部に販売等して好評を得た。

(エ)現在の課題

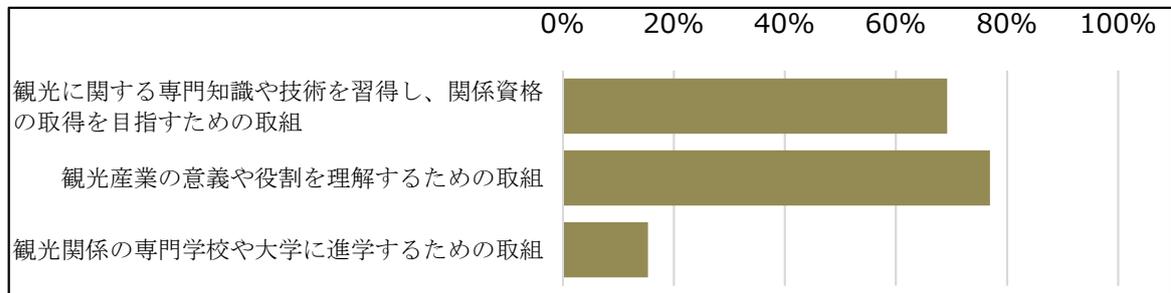
- ・生徒、保護者共に、入学前の学びの認知度が圧倒的に低い。
- ・学科によって、学びに取り組みやすい学科とそうではない学科がある。

(オ)近隣中学校の状況

- ・魅力ある県立学校づくり大賞で教育長賞を頂いたことで、最近では近隣の中学校からは観光の学びについて、やっていることの理解が得られている。

イ 近隣中学校（13校）へのアンケート

(ア)「観光の学び」の取組について



(イ)中学校からの意見(抜粋)

- ・市や企業とうまく連携できると良い。
- ・具体的な学びの内容や生徒の姿、学習の成果、課題について、教職員や保護者に啓発・広報してほしい。
- ・城西国際大学観光学部との連携を密にしてほしい。
- ・学びを通して、観光業の拡大、観光を通しての地域の活性化。
- ・将来、観光産業に進む生徒を育成してほしい。
- ・県内有数の観光資源がある地域の特性を存分に生かしてほしい。
- ・高校での観光学習が、地元の観光とつながりをもてるか疑問である。

(7) 統合・総合学科

ア 大原高校への聴き取り(抜粋)

(ア) 統合校の目標や特色

- ・地域とともに歩み、地域の発展に貢献し、地域社会に貢献できる心身共に健康な生徒を育てる。
- ・2年次からは普通、園芸、海洋科学、生活福祉の系列に分かれ多様な学びを用意している。普通系列には選択科目を多くし、進路実現に応えるようにした。

(イ) 学習への取組

- ・個に応じたきめ細かな指導により、基礎・基本の指導を徹底し、「確かな学力」の定着を図る。統合により科目選択の幅が広がった。2年次より4つの系列に分かれ、生徒の興味・関心に応じた選択科目を設定することができる。習熟度別及び少人数編成の講座を設置し、基礎学力の定着を図っている。

(ウ) 部活動の状況

- ・統合により、部活動数や各部活動の部員数が増え、活発な活動ができている。

(エ) 進路指導の状況

- ・統合により大学推薦枠も広がった。進学から就職まで幅広い進路希望をもった生徒に対応している。

(オ) 統合及び総合学科設置の成果

- ・個に応じたきめ細かな指導により、基礎・基本の指導を徹底し、「確かな学力」が定着した。2年次より4つの系列に分かれ、生徒の興味・関心に応じた選択科目を設定し、生徒の多様なニーズに応じた進路実現が図られている。

(カ) 現在の課題

- ・総合学科のメリットについて、中学生や保護者、学校関係者に理解が図られるよう周知する取組が必要である。

(キ) 近隣中学校の状況

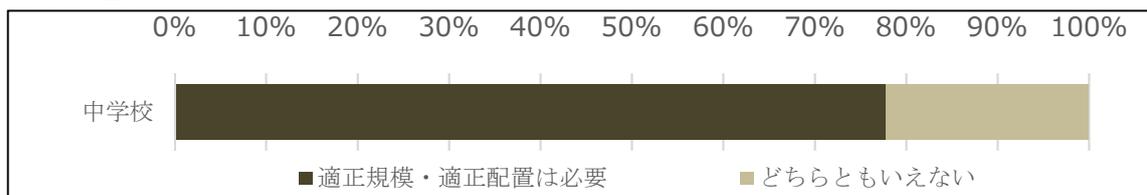
- ・地域の高校として、地元中学生の受け入れ先として高く期待されている。

(ク) 地域等との連携

- ・インターンシップ、清掃活動、体育館やグラウンドの開放、避難訓練、福祉施設でのボランティアを行っている。

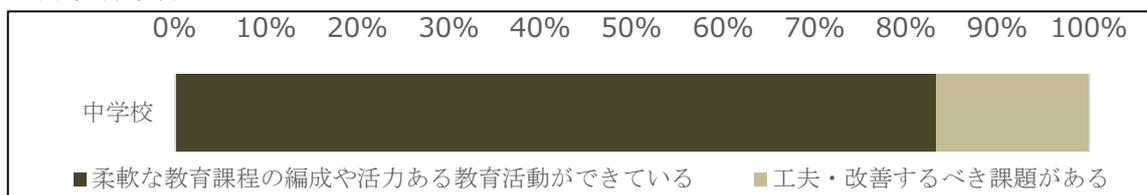
イ 近隣中学校（18校）へのアンケート

(ア) 統合について



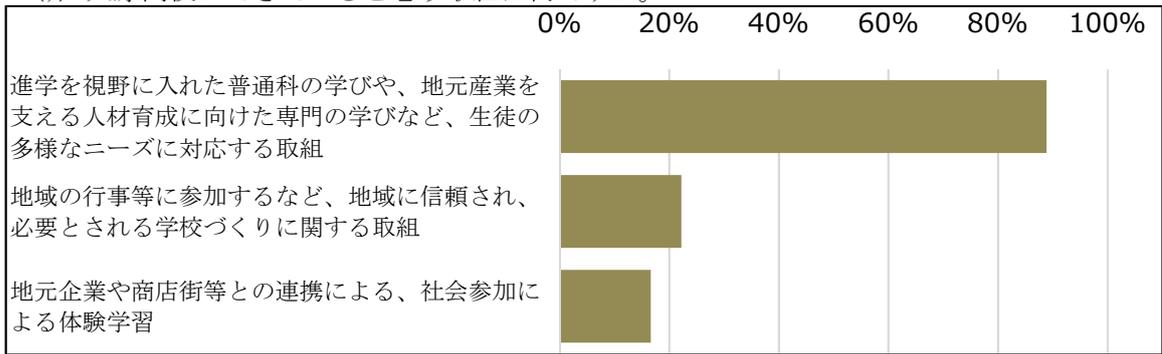
- ・地域の意見を反映しつつ、少子化の面からも必要と考えます。
- ・学校の歴史、事情など関係各位の思いがあると思います。
- ・生徒数の減少から考えると、統合は確かにやむを得ないが岬高校については、継続もあったかと思う。
- ・生徒数が少なくなっている現状では適正な措置である。
- ・夷隅地区はかつての6校の高校が現在は2校となっている。JRやバスの本数も減少するなかで限界と考える。
- ・子どもの数が年々減っている状況のため、統合していく事は必要であると思う。
- ・生徒が減っていく中で、高校の特色を打ち出していく必要がある。
- ・統合そのものについては疑問が残る。小規模校の良さを生かし、多くの生徒たちの自己実現に貢献してきた伝統が夷隅にはある。
- ・遠くの学校に通うより、近くの高校で様々なことを学べる方が、外房の地では適正であると思うから。

(イ) 総合学科について



- ・総合学科としての特性を中学校側が広く知るため、中高接続の工夫が今後求められるのではないかと。
- ・柔軟な教育課程の編成の面では理解できる。しかし、実習場までの移動や高い技術をもった指導者の流出には改善の余地があると思う。
- ・大規模の学校であれば柔軟な教育課程を組むことも可能であると思うが、小規模の場合には限られた中での対応となるため、総合学科の良さを生かし切れないと思う。
- ・多くの教員に手厚くきめ細かな指導に当たっていただける体制が可能となっている。

(ウ) 大原高校ができていると思う取組は何ですか。



3 外部・関係団体の意見

(1) 意見聴取先（五十音順）

ア 全般的に聴取した団体

- 千葉県高等学校長協会
- 千葉県高等学校PTA連合会
- 千葉県中学校長会
- 千葉県町村教育長協議会
- 千葉県都市教育長協議会

イ 各コース等について聴取した団体

- いすみ市教育委員会〔統合・総合学科〕
- 勝浦市教育委員会〔統合・総合学科〕
- 勝山漁業協同組合〔栽培環境コース〕
- 香取市社会福祉協議会〔福祉コース〕
- 秀明大学〔地域連携アクティブスクール〕
- 館山市役所観光課〔観光の学び〕
- 館山水産事務所〔栽培環境コース〕
- (株)ちば南房総〔観光の学び〕
- 千葉県農業協会〔農業教育拠点校〕
- 千葉県農林水産部〔農業教育拠点校、栽培環境コース〕
- 千葉県立農業大学校〔農業教育拠点校〕
- 千葉大学〔グローバルスクール〕
- 銚子市漁業協同組合〔栽培環境コース〕
- 銚子水産事務所〔栽培環境コース〕
- 流山市立新川小学校〔地域連携アクティブスクール〕
- 成田市教育委員会〔グローバルスクール〕
- 成田市役所〔グローバルスクール〕
- 成田市立向台小学校〔グローバルスクール〕
- ハートケア流山〔地域連携アクティブスクール〕
- 福祉楽団 杜の家 くりもと〔福祉コース〕
- 船橋市立古和釜小学校〔地域連携アクティブスクール〕

(2) 主な意見

ア 全体を通しての意見

- ・中学校卒業者数の急激な減少や地域の特性の違い、また、汎用的なキャリア教育など明確な課題に対し、丁寧な実践が行われていることがわかった。
- ・生徒がコースや学びの内容をきちんと理解して入学し、進学や就職に結びつくような広報が必要である。
- ・生徒が行きたい学校から、自分を生かせる学校にして欲しい。各学校が、この学校ならではという特色をもつことが必要であるだろう。
- ・専門教育やコースについては、生徒が自分の適性をしっかり把握してミスマッチのないように選択できるのだろうか。転科や転学など進路変更がしやすいシステムがあると良い。

- ・生徒数減少に対応する県立高校として、現状を県民全体に周知する必要がある。統合についてはやむを得ないと感じる。
- ・中学生・保護者にとどまらず県民に対し、改革推進の目的及び取組の現状と成果について、広報活動の強化をお願いしたい。

イ グローバルスクール（成田国際高校）についての意見

- ・生徒の主体性を尊重する学校の姿勢が、現に国際社会で活躍する人材を多く輩出していることは高く評価できる。グローバル教育について、さらに目に見えるアピールをすること、東京オリンピック等様々な場面で生徒が更なる活躍の場を広げることが期待される。
- ・成田国際高校の取り組みは、グローバル人材の育成につながるだけでなく、地域貢献や社会性育成の観点からも、大きな効果があったものと思っており、今後も成田市を中心とした地域とのつながりをもった取組を続けることを希望する。
- ・多角的な視野や、プレゼンテーション能力は、今後より一層求められるものなので、そういったものを学ぶことができたという意見があることは評価できる。
- ・成田国際高校の校内でもいろいろな改善をし、生徒も一生懸命取り組んでおり、活発な意見が出るようになった。先生方に対するワークショップがないことが課題である。
- ・成田国際高校で指導している「ロジカルに物事を考える」、「話すときに論証する」ことは、上級学校への受験にも結び付くのではないかと。

ウ 農業教育拠点校（茂原樟陽高校）についての意見

- ・情報共有がとても大切である。農業現場の情報が高校に伝わらない。農業新聞を農業高校でも見てほしい。また、農業関係の発表会資料を増刷して配布すれば、情報共有できる。拠点校に人を加配し資料を集めて、情報発信するのはどうか。
- ・アグリサポーターズちばで、実績を出していくには10年くらいかかるだろう。学校教育と一緒に時間がかかる。
- ・行政機関とのネットワークについて改善を図っているところである。ネットワークを活用することが今後求められてくるだろう。
- ・農業高校との連携については、要請があれば応えていく。研修や出前授業などが行える。学校がある地域の生産者をもっと活用してほしい。
- ・栽培技術の向上や人材育成などの課題が挙げられていることから、拠点校で解決に向けた取組を試行し、成果を波及するなどの役割を期待したい。

エ 福祉コース（小見川高校）についての意見

- ・以前は求人のためだけの関係だったが、交流が多くなった。多くの職員が講師として小見川高校に出向いており、いい意味で職員の刺激となっている。
- ・実際に授業を実施してみると、かなり意識の高い生徒もいることがわかる。動機付けとしてはいいのではないかと。2年生と3年生では生徒の意識が明らかに変わっている。
- ・社会人になってから、介護職員初任者研修の資格を取るのは大変（時間がない）。高校生のうちに取得できるのは大きなメリット。
- ・地域柄、祖父母と同居している生徒が多く、そういった面で福祉コースは実用的なコースだと思う。

オ 地域連携アクティブスクール（船橋古和釜高校・流山北高校）についての意見

- ・学び直しを通して、中学校では学習ができなかった生徒が自信をつけてリーダーシップを発揮することができていて素晴らしい取組である。
- ・学校は少人数指導を実施しており、生徒へ丁寧な指導をしている。先生方の空き時間は少なくなるだろうが、頑張っている。
- ・学生サポートボランティアの制度は、教わる高校生と教える大学生のどちらにもメリットがある。
- ・地域連携アクティブスクールが、地域に根ざした学校になっていることがわかる。
- ・学校の特色や学び直しの詳細について、最初は理解できなかったので広報をしっかりとした方が良い。

カ 栽培環境コース（銚子商業高校・館山総合高校）についての意見

- ・実業高校であることの特色を生かし、漁業や海上での仕事を行う際に必要とされる無線資格等の取得コースを検討するなど今後一層の取組の充実を期待する。
- ・千葉県の漁業就業者数は年々減少している一方で、生徒の進路先は就職が最も多いことから、県内の水産関係業界・企業・経営体とより一層連携を図るとともに、現場で求められる資格の取得や技術習得できるカリキュラムを組むなど現場で即戦力となるよう教育内容を充実させ、県水産業の発展に資する人材育成をお願いしたい。
- ・海に対する興味をもたせるには、小学生の時期が最も良い。水産高校の実習で小学校と連携するのが良いのではないかと。
- ・生徒との関わりは漁協まつりの時くらいなので、今後は連携の機会が多くなることを期待している。
- ・漁業に就職する生徒は、船舶免許、潜水の資格を持っている。ロープの結びなどの基礎も身に付けており就職後即戦力となっている。

キ 観光の学び（館山総合高校）についての意見

- ・南房総市のホームページから商業科の生徒が作ったコマーシャルを発信してはどうか。良いPRになる。
- ・希望者だけ資格を取れるカリキュラムを組んでどうか。学科の中だけでも学年を通した横断的なものでも、どちらでも良いと思う。
- ・資格を取れることを示せば、保護者にとっては魅力的に映る。具体的には、国内旅行業務取扱管理者試験が取り組みやすいのではないかと。
- ・地域活性化のうえでも高校生が観光について学んでくれることは有り難い。
- ・地域観光を学ぶことで地元愛を育むことができる。今後は積極的に連携して様々な取組を行っていくことで、地元に着する生徒を増やしていきたい。

ク 統合・総合学科（大原高校）についての意見

- ・毎年、市内中学校から、およそ 30%の生徒が進学している。残念ながら、入学者数は募集定員を下回っているが、その分個別の学習指導や進路指導の充実が図られている。
- ・総合学科の特色を生かし、生徒や地域に必要な系列（普通、園芸、海洋科学、生活福祉）が設定され、多様な学びが生徒の自己実現の大きな力となっている。
- ・インターンシップやボランティア活動等、地元の事業所や施設とのつながりも深く、地域と密着した学校である。
- ・地域になくってはならない高校であるので、現在の 240 名の定員を維持していただきたい。

4 基礎データ

(1) 志願状況

ア グローバルスクール

成田国際高校・普通科

年度	募集定員	前期選抜			後期選抜			備考
		予定人員	志願者数	倍率	募集人員	志願者確定数	倍率	
H26	200	120 (60%)	358	2.98	80	165	2.06	
H27	200	120 (60%)	267	2.23	80	120	1.50	グローバルスクール導入
H28	200	120 (60%)	292	2.43	81	154	1.90	
H29	200	120 (60%)	275	2.29	81	149	1.84	
H30	200	120 (60%)	339	2.83	80	171	2.14	

成田国際高校・国際科

年度	募集定員	前期選抜			後期選抜			備考
		予定人員	志願者数	倍率	募集人員	志願者確定数	倍率	
H26	120	96 (80%)	231	2.41	24	66	2.75	
H27	120	96 (80%)	214	2.23	24	66	2.75	グローバルスクール導入
H28	120	120 (100%)	185	1.54	-	-	-	※前期選抜のみで充足
H29	120	120 (100%)	252	2.10	-	-	-	※前期選抜のみで充足
H30	120	120 (100%)	249	2.08	-	-	-	※前期選抜のみで充足

イ 福祉コース

小見川高校・普通科

年度	募集定員	前期選抜			後期選抜			備考
		予定人員	志願者数	倍率	募集人員	志願者確定数	倍率	
H26	160	96 (60%)	170	1.77	64	80	1.25	
H27	160	96 (60%)	181	1.89	64	88	1.38	コース設置
H28	160	96 (60%)	139	1.45	64	69	1.08	
H29	160	96 (60%)	164	1.71	64	70	1.09	
H30	160	96 (60%)	160	1.67	64	69	1.08	

ウ 地域連携アクティブスクール

船橋古和釜高校・普通科

年度	募集定員	前期選抜			後期選抜			備考
		予定人員	志願者数	倍率	募集人員	志願者確定数	倍率	
H26	240	144 (60%)	144	1.00	108	81	0.75	
H27	240	192 (80%)	196	1.02	54	75	1.39	アクティブ スクール設置
H28	240	192 (80%)	309	1.61	48	58	1.21	
H29	240	240 (100%)	316	1.32	-	-	-	※前期選抜 のみで充足
H30	240	240 (100%)	327	1.36	-	-	-	※前期選抜 のみで充足

流山北高校・普通科

年度	募集定員	前期選抜			後期選抜			備考
		予定人員	志願者数	倍率	募集人員	志願者確定数	倍率	
H26	240	144 (60%)	182	1.26	96	90	0.94	
H27	240	192 (80%)	271	1.41	48	58	1.21	アクティブ スクール設置
H28	240	192 (80%)	281	1.46	48	64	1.33	
H29	240	192 (80%)	311	1.62	48	68	1.42	
H30	240	192 (80%)	208	1.08	48	60	1.25	

エ 栽培環境コース

銚子商業高校・海洋科

年度	募集定員	前期選抜			後期選抜			備考
		予定人員	志願者数	倍率	募集人員	志願者確定数	倍率	
H26	80	64 (80%)	62	0.97	24	16	0.67	
H27	80	64 (80%)	31	0.48	51	5	0.10	コース設置
H28	80	80 (100%)	49	0.61	28	15	0.54	
H29	80	80 (100%)	71	0.89	8	3	0.38	
H30	80	80 (100%)	58	0.73	15	1	0.07	

館山総合高校・海洋科

年度	募集定員	前期選抜			後期選抜			備考
		予定人員	志願者数	倍率	募集人員	志願者確定数	倍率	
H26	80	64 (80%)	70	1.09	23	23	1.00	
H27	80	64 (80%)	45	0.70	46	15	0.33	コース設置
H28	80	80 (100%)	47	0.59	37	4	0.11	
H29	80	80 (100%)	29	0.36	57	6	0.11	
H30	80	40 (50%)	43	1.08	42	14	0.33	

オ 観光の学び

館山総合高校・工業科

年度	募集定員	前期選抜			後期選抜			備考
		予定人員	志願者数	倍率	募集人員	志願者確定数	倍率	
H26	40	32 (80%)	44	1.38	8	9	1.13	
H27	40	32 (80%)	30	0.94	13	0	0.00	学び導入
H28	40	40 (100%)	31	0.78	10	2	0.20	
H29	40	40 (100%)	35	0.88	6	2	0.33	
H30	40	30 (75%)	38	1.27	10	10	1.00	

館山総合高校・商業科

年度	募集定員	前期選抜			後期選抜			備考
		予定人員	志願者数	倍率	募集人員	志願者確定数	倍率	
H26	40	32 (80%)	31	0.97	9	1	0.11	
H27	40	32 (80%)	34	1.06	8	2	0.25	学び導入
H28	40	40 (100%)	37	0.93	4	1	0.25	
H29	40	40 (100%)	36	0.90	5	2	0.40	
H30	40	30 (75%)	32	1.07	10	4	0.40	

館山総合高校・海洋科（再掲）

年度	募集 定員	前期選抜			後期選抜			備考
		予定 人員	志願 者数	倍率	募集 人員	志願者 確定数	倍率	
H26	80	64 (80%)	70	1.09	23	23	1.00	
H27	80	64 (80%)	45	0.70	46	15	0.33	学び導入
H28	80	80 (100%)	47	0.59	37	4	0.11	
H29	80	80 (100%)	29	0.36	57	6	0.11	
H30	80	40 (50%)	43	1.08	42	14	0.33	

館山総合高校・家政科

年度	募集 定員	前期選抜			後期選抜			備考
		予定 人員	志願 者数	倍率	募集 人員	志願者 確定数	倍率	
H26	40	32 (80%)	36	1.13	8	4	0.50	
H27	40	32 (80%)	39	1.22	8	7	0.88	学び導入
H28	40	40 (100%)	39	0.98	4	2	0.50	
H29	40	40 (100%)	35	0.88	6	2	0.33	
H30	40	30 (75%)	33	1.10	10	8	0.80	

力 統合

大原高校・総合学科

年度	募集 定員	前期選抜			後期選抜			備考
		予定 人員	志願 者数	倍率	募集 人員	志願者 確定数	倍率	
H26	120	72 (60%)	98	1.36	48	47	0.98	旧大原高校 普通科
	40	24 (60%)	29	1.21	16	18	1.13	旧岬高校 普通科
	40	24 (60%)	40	1.67	16	20	1.25	旧岬高校 園芸通科
	80	40 (50%)	33	0.83	52	6	0.12	旧勝浦若潮高校 総合学科
H27	240	192 (80%)	197	1.03	48	28	0.58	統合
H28	240	240 (100%)	166	0.69	79	26	0.33	
H29	240	240 (100%)	153	0.64	91	31	0.34	
H30	240	240 (100%)	136	0.57	113	39	0.35	

(2) 平成 29 年度（平成 30 年 3 月末）進路状況

ア 「グローバルスクール」を設置した成田国際高校の卒業生

種 別	人数	割合	主な進路先
大学・短大	267	83%	茨城大学、千葉県立保健医療大学、千葉大学 東洋大学、神田外語大学、日本大学
専門学校等	18	6%	日本外国語専門学校、成田航空ビジネス専門学校、 千葉敬愛短期大学
就 職	6	2%	公務員（一般行政）
そ の 他	29	9%	進学予定
	320	100%	

イ 小見川高校「福祉コース」の卒業生

種 別	人数	割合	主な進路先
大学・短大	2	11%	淑徳大学
専門学校等	9	47%	成田国際福祉専門学校、藤リハビリテーション学院、 宮本看護専門学校
就 職	8	42%	江戸川豊生会かたりの郷福楽団、特定非営利活動法人 おたがいさま、菜の花会しもふさ学園
そ の 他	0	0%	
	19	100%	

ウ 「地域連携アクティブスクール」を設置した船橋古和釜高校・流山北高校
卒業生

種 別	人数	割合	主な進路先
大学・短大	56	15%	千葉工業大学、千葉商科大学、江戸川大学、亜細亜大学、 千葉経済短期大学、淑徳大学短期大学部
専門学校等	121	32%	神田外語学院、船橋情報ビジネス専門学校、江戸川大学 総合福祉専門学校、葵会柏看護専門学校
就 職	180	47%	コープみらい、西濃運輸、マルエツ、日本郵便関東支社、 トヨタカローラ千葉、警視庁、自衛官
そ の 他	22	6%	アルバイト、家事手伝い、進学予定
	379	100%	

エ 銚子商業高校・館山総合高校「栽培環境コース」の卒業生

種別	人数	割合	主な進路先
大学・短大	3	9%	千葉科学大学、国際武道大学、千葉敬愛短期大学
専門学校等	5	15%	白十字看護専門学校、東京コミュニケーションアート専門学校 船橋情報ビジネス専門学校、東京バイオテクノロジー専門学校
就職	23	70%	銚子市漁業協同組合、勝山漁業協同組合、森幸漁網 東京魚類容器、寅丸、東京豊海冷蔵、極洋船舶
その他	2	6%	未定
	33	100%	

オ 「観光の学び」を導入した館山総合高校の卒業生

種別	人数	割合	主な進路先
大学・短大	10	8%	専修大学、千葉商科大学、実践女子大学、聖徳大学 植草学園短期大学、清和大学短期大学部
専門学校等	34	25%	亀田医療技術専門学校、千葉調理専門学校、 船橋情報ビジネス専門学校
就職	85	63%	千葉県職員、自衛隊、安房地域医療センター、 新日鐵住金、NTT東日本
その他	5	4%	進学予定、未定
	134	100%	

カ 「統合」及び「総合学科」を設置した大原高校の卒業生

種別	人数	割合	主な進路先
大学・短大	32	17%	国際武道大学、淑徳大学、千葉工業大学、千葉経済大学 東海大学、日本大学、千葉敬愛短期大学
専門学校等	52	27%	亀田医療技術専門学校、千葉県立農業大学校、千葉県自 動車総合大学校、市原高等技術専門校
就職	100	52%	ALSOK千葉、JFEプラントエンジニア、亀田総合病院 勝浦ホテル三日月、房総カントリークラブ、自衛隊
その他	7	4%	家事手伝い、進学予定、未定
	191	100%	

(3) 資格取得状況

ア 小見川高校・福祉コース選択者

資 格	受験者	合格者	割合
介護職員初任者研修修了者	19	19	100%